

わたしも、あなたも、すべての人^{ひと}

あたりまえの性^{からだ}（身体のかたちでその人の性は決まる、誰もが異性を好きになる）の在り方の中で、生きづらさを感じ、自分を生きることができないセクシャルマイノリティ（性的少数者）とされる人たち。セクシャルマイノリティとされる人たちは、家庭、学校、社会での日々の暮らしの中で多くの悩みや不安を抱えています。約10.0%（10人に1人）が性的少数者であるという調査も報告されています。わたしたちの周りにも、自分らしく生きることができずに生きづらさを感じている人がいるかもしれません。



ぼくが好きになるのは男の子。
これっておかしことなの？

女の子として見ないでほしい！



テレビなどを見て家族がゲイやレスビアンを
否定している姿を見るとつらい……。
家族にはとても言えない……。

決められた制服を着るのが本当にいや。
スカートをはきたくないのに……。



自分のことを分かってもらいたい。
でも、差別されたらどうしよう……。

LGBTやLGBTQなど様々な表現がある一方で、近年、「SOGI（ソジ）」・「SOGIESC（ソジークス）」などの表現が使われるようになってきました。

SOGI・・・「sexual orientation and gender-identity」の頭文字で、性自認、性的指向を表す。

SOGIECS・・・「sexual orientation and gender-identity and expression and sex characteristics」の頭文字で、「SOGI」に、さらに性表現、性的特徴が加えられている。

この考え方は、すべての人が、性自認、性的指向、性表現、性的特徴を持っているという考え方、つまり誰もが多様な性の当事者であることを表します。

が多様な性の当事者です!

すべての人が自分らしい性を生きていくために

小郡市内の 中学校の制服の取り組み

現在多くの中学校や高等学校で、制服の在り方について見直されてきています。小郡市内にも、多様な性を認め、生徒一人ひとりがより自分らしく学校生活を送ることができるようするために、性別に関係なく制服（ズボンとスカート・ブレザーの形など）を選択することができる学校もあります。すべての生徒が、自分に合った制服を選択することができるように、さらに検討が進められています。

これは、多様な性について学んでいく中でつくられていった動きです。

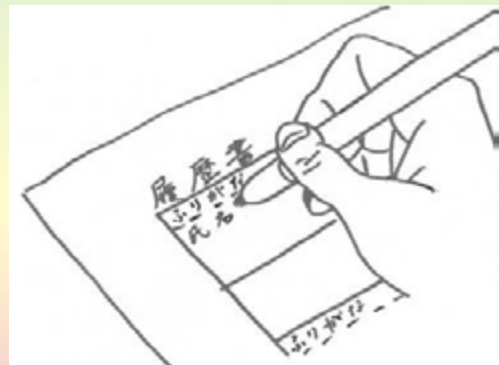


入学願書・履歴書・ 証明交付申請書等の 性別欄について

現在、入学願書から性別欄を削除する高等学校が増えてきました。また、就職時等に使われる履歴書からも性別欄を削除する動きもみられています。

これらは、セクシャルマイノリティとされる当事者の声を受けて進められてきた取り組みです。性別による不当な取り扱いの解消、セクシャルマイノリティとされる人たちにとって自分らしい性を生きることができる社会の確立へとつながる取り組みではないでしょうか。

小郡市でも証明交付申請書等にこれまでであった性別欄が削除されています。



当事者の声を受けて、さまざまな取り組みがなされています。小郡市でも、誰もが自分らしい性を生きることができるよう取り組みが進められています。

しかし、社会の中にセクシャルマイノリティとされる人たちに対する偏見や差別的な見方がある限り、すべての人が自分らしい性を生きていくことは困難です。セクシャルリティ（性の在り方）は人権であり、一人の人間の性は、多様な性のグラデーションの一つであることを理解していくことが大切なのではないのでしょうか。